

平成21年度 共同機構研修会 第5回 ——— 平成21年10月19日(月)

京都市保育士会共催

幼稚園・保育所だからこそできる親支援 ～その多様な方法を考える～

講師 倉石 哲也 武庫川女子大学准教授

武庫川女子大学准教授。専門分野は児童家庭福祉、社会福祉援助技術。「生活課題を多く抱える親へのグループ支援」について研究中。主な著書は、「家族援助論」「子ども虐待:保育者は子どもにどう関わるか」「社会福祉援助技術演習 家族ソーシャルワーク」他。

親支援を考えるには、養育期において親がどのような課題をかかえているのかを理解することが大切です。以前と比べ生活形態や社会も変わり、そうせざるを得ない親の背景を考慮して関わっていきましょう。

園としては、親同士を繋げ、親としての子どもの向き合い方やコミュニケーションにスキルアップができるような取組を進めること、そして、親の頑張りを認めていくことが大切になります。

保育者個人としては、まずは信頼関係を築くことが最重要です。そのためには、親の困っていることを把握し、傾聴し、共感することが大切です。信頼関係が築けた後には、保育者の思いを伝え、具体的にできそうなことを相談していきましょう。そして少しの変化も見逃さず評価することが大切です。

配慮が必要な親に対しては、苦情を持って来られたことをチャンスとして捉え、覚悟と気合いをもって対応しましょう。「一緒に子育てをしていくんだ」というスタンスを保ち、担任一人で抱え込むのではなく、園全体で、あるいは関係機関と連携して取り組む体制を作ること大切です。

それでも関わりが困難な親に対しては、親ではなく、保育者自身が落ち着くことを考えてください。また、「私が頑張らない」と思うことは要注意です。努力しても関係が変わらない場合は自分を責める必要はありません。保育者自身が上手に気分転換することが良いでしょう。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

平成21年度 共同機構特別研修会 —— 平成21年11月27日(金)

児童家庭課・保健医療課との連携講座

思春期を見通して心の土台を育てる

講師 定本 ゆきこ 京都少年鑑別所法務技官

京都少年鑑別所 法務技官・精神科医。京都市教育委員会 学校問題解決支援チーム専門委員。主な著書は、「どう関わる？思春期・青年期のアスペルガー障害～生きにくさの理解と援助のために」（共著）「子どもの姿と大人のありよう」（共著）他。

私は少年鑑別所で非行少年の鑑別をし、主に子どもが非行に至った理由を見ています。そこに思春期の子どもを通して家庭や社会の歪みが見えてきます。

規則正しい生活リズムや食生活，人とのかかわり，年齢相応の遊びなど，以前なら言う必要もなかった当たり前の生活ができにくくなっています。消費社会の中で子どもがターゲットとされ，健やかに発達することを脅かされている状況があります。

また，子どもは乳児期・幼児期・学童期・思春期と過ごし大人になっていきます。その時期ごとに課題と危機があり，それらを乗り越えることによって土台をつくり次の期をより豊かに過ごしていきます。例えば，乳児期には身近な大人に依存を十分に受け入れられることにより，「私はこの世の中に受け入れられている」という基本的信頼を培い，「いつも見守っていてくれるあなた」が心の中に住むという内在化を進めます。これらが順調になされてこそ，その後の人生において安心して前向きな気持ちをもって生きていくことができます。思春期には回りの大人に依存と反発を十分に受け入れられることにより，「私は私である」という自己同一性を獲得し，心理的自立をしていきます。しかし，十分に依存を受け入れられることがなく育った子どもは，子どもから大人へと移り変わる難しい時期である思春期に様々な問題として表面化してしまうのです。

このように子どもの健やかな発達には大人の適切なかかわりが必要です。親や保育所・幼稚園・学校の先生など身近な人とのやりとりが発達に関わっていきます。大人との出会いが子どもの土台をつくります。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

平成21年度 共同機構研修会 第6回 ——— 平成22年1月28日(木)

京都市私立幼稚園協会共催

子どもの発達と遊び

講師 岩田 純一 京都教育大学教授

京都教育大学教授，京都大学大学院教育学研究科
附属臨床教育実践センター客員教授。専門分野は実
験系心理学発達心理学。主な著書は，「<わたし>
の世界の成り立ち」「新しい幼児教育を学ぶ人のた
めに」「<わたし>の発達」「子どもはどのように
して<じぶん>を発見するのか」他。

子どもは遊びの中で様々なことを学び、育っていきます。しかし、子どもは学ぶために遊んでいるわけではありません。大人は何かを学ばせるために子どもを遊ばせるという考え方の危険性を認識していなければなりません。

子どもが集団で生活する意義は、集団の中で遊びを通して共同性を身につけていくことです。自分とは異質な他者「他者性」との出会いを通し、「もの」や「こと」の世界を他者と共有し、他者と折り合いを付けていくことの必要性や大切さを知っていきます。子どもの遊びは発達とともに変化していきます。それらの発達の变化的変化の中に、個の育ちと他者が関与する共同性の育ちを見ていくことが重要です。

子どもが遊びの中で育つためには、子どもの「遊び」をみる保育者のまなざしが大切です。1つ目は、子どもが遊びの中でネガティブな感情を感じても、それを乗り越えても友達と一緒に遊びたいと思える遊びの環境をつくり、支援していくこと。2つ目は遊びの中で子どもが常に友達の新しい面を発見し、自分自身の新しい面を見だし、それを仲間同士で認め合えるような関係をつくっていくこと。3つ目は、集団の場における遊びの中で、子どもがほんとうに他者性に出会えているかを丁寧に見ていくということ。これらの3つの視点をもって、子どもの遊びを見ていってください。

平成21年度 こどもみらい館共同機構研修会 との合同研修 — 平成22年2月8日(月)
京都市教育委員会保・幼・小・中連携推進事業

実践研究発表 平成19・20年度実践研究指定校区 「嵯峨中学校区における保・幼・小・中連携」

嵯峨のこどもを育てるための 保・幼・小・中連携のあり方

京都市教育委員会では、中学校区を単位とする地域において、その地域内の子どもたちの健全育成を図るため、保育園(所)、幼稚園、小学校、中学校の連携を推進する実践研究を進めています。平成21年度は、久世・山科・大原野の3中学校区を実践研究推進校区に指定し、各中学校区の実態・課題を踏まえつつ、保育園(所)・幼稚園が公私の垣根を越えて、京都市立小・中学校との協議を深め、一丸となって子どもたちを育てる活動に取り組んでいます。

今回は、平成19・20年度の実践研究指定校区である嵯峨中学校区における保・幼・小・中連携推進事業の成果と課題を全市に発信するため、宮崎幹也嵯峨中学校長、藤本綾子嵯峨幼稚園主事、青山泰浩嵐山小学校長、高谷真衣まこと幼稚園保育士の4人の先生方から、様々な交流・連携事例を報告していただきました。

報告会には123名の参加者があり、「地域ぐるみの子育ての輪の大切さを実感した。」「一層連携していけるよう園で話し合いたい。」「校種間連携については当たり前のことであるが、今それがとても大切になってきていることを実感した。」などの御意見をいただきました。

Information



共同機構研修会

平成21年度こどもみらい館の共同機構研修会は、年間9講座11回を実施し延べ3170人の方に御参加いただきました。各研修会のエッセンスは「かがやき」でお知らせしていますが、本年3月末には「平成21年度 共同機構研修会 講義要録」の発行を予定しています。御活用ください。

平成22年度の共同機構研修会では、新保育所保育指針・幼稚園教育要領が施行され1年が経過した中で、子どもの主体的な遊びや協同的な遊びについて見直し、小学校にどうつなげていくかなどに焦点をあて、保育の本質を改めて見つめなおすとともに、今日的な課題を見据えた研修となるよう計画を進めています。詳細につきましては、3月中に各園所へお届けします。平成22年度の研修計画の中に位置づけ、多数の方の御参加をいただきますようよろしくお願いいたします。

編集後記

先日、テレビ番組でインド教育を特集していました。幼少期からの二桁の九九の暗記や英語教育、パソコン教育におけるプログラミングまでの習得などを紹介し、東京に在るインド学校には2割ほどの日本人が通っているとのことでありました。

熾烈な受験戦争を勝ち抜いた優秀なインド人が、マイクロソフト社やNASA職員の3割を占めるそうであります。即戦力として活用できる強みを持っているからだと思えます。

日本の「ゆとり教育」が曲がり角に来ている時期だけに考えさせられる番組でした。

4月から当園にインドの3歳児が入園してきますが、どんな子か今から非常に楽しみにしています。

研究・研修部会委員 西谷文孝(葉室幼稚園 園長)

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。
(「子どもを共に育む
京都市民憲章」より)



発行日 平成22年3月15日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel(075)254-5001 Fax(075)212-9909
URL <http://www.kodonomirai.or.jp>